

# 学生の主体性を引き出す学生支援

## —コロナ後のキャンパスが学生のHOMEであり続けるために必要な取り組みの可能性を考える—

ハイフレックス開催(予定)

●日時 2022年3月1日(火) 15:00~17:00

●場所: 甲南大学 5号館 522教室(参加人数により教室変更の場合があります)

ZOOMによる同時配信予定(学外の方はオンライン参加のみの受付となります)

●対象: 本学教職員ならびに本テーマに関心のある高等教育機関の教職員・カウンセラー

●趣旨: コロナ禍でのキャンパスライフがもうすぐ3年目を迎えようとしています。この間、学生たちは遠隔授業などを通して新たな学びを得た一方、密接に多様な人と関わることを通して自己理解を深め、新たな活動に挑戦し、社会に巣立つ力を育むという、学生期に必要な人間形成の機会を大きく奪われてしまいました。コロナ禍世代の学生たちにとって、再びキャンパスが「そこに居ると安心できるHOME」「つながりを実感できるHOME」になるために、どんな支援に取り組むことが必要でしょうか。何よりも、学生それぞれが望む体験を自ら実現できるよう、主体性を引き出し、困難があれば支え、寄り添っていくことではないでしょうか。

筑波大学では十数年前から、「学生の自発性に働きかけ、学生の自発性に大学として応えることによって学生の自信が育つ大学作り」という理念の下、学生と教職員が一体となって「共創的なキャンパスコミュニティ」を創るT-ACTを展開しています。今回は、それらの取り組みについて講師の先生からお伺いし、私たちの大学においてできること、必要なこと、そして教職員と専門家の協働のあり方について参加者の皆様と共に考えます。

講師

杉江 征 先生

筑波大学人間系 教授

スチューデントサポートセンター学生相談室室長 専任カウンセラー

1990年筑波大学大学院博士課程心理学研究科単位取得退学。

上越教育大学学校教育学部助手、1994年筑波大学心理学系・保健管理センター助手、同教授を経て現職。専門は臨床心理学。

日本学生相談学会常任理事。著書に「学生相談ハンドブック【新訂版】」(共著、学苑社)など、現在の研究テーマは「学生生活における大学生の心理社会的成长とその要因に関する実証的研究」

●参加申込方法 ①または②の方法で2022年2月21日(月)までにお申し込み下さい。

①右の二次元バーコードから申込フォームに入力し、送信

②次のURLから申込フォームに入力し、送信

<https://ssl.konan-u.ac.jp/gentry/counseling>

(本学教職員のみ) MyKONAN掲示の案内からも可能

※オンライン参加を申し込んだ方には、前日2月28日にZOOMのIDとパスコードをお送りします。



●開催方法 新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で開催しますが、状況により全面オンラインに変更する場合は申込者に連絡します。

●問合わせ先 学生相談室 電話078-411-4647  
カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室 電話078-453-6104